

開会挨拶

日本海事センター会長の宿利正史です。本日のセミナーにも、大変多くの皆様にご参加の申込みをいただいております。誠にありがとうございます。

日本海事センターは、海事分野の中核的なシンクタンクとして、流動化する国際情勢の下、産官学の関係者との緊密な連携・協働により、海事関係の各種調査・研究事業等に取り組んでいます。

昨年3月から新たに開始した「JMC 海事振興セミナー」は、昨年中に計5回の開催を数え、今年最初に当たる本日は、第6回として「グローバルサプライチェーンの強靱化に向けた国際海運・物流の課題と将来展望」をテーマに開催いたします。

2020年初から続いた新型コロナウイルス感染症のパンデミックや、昨年2月来のロシアによるウクライナ侵略などの国際情勢の激変の影響を受け、グローバルサプライチェーンは大きな混乱をきたしました。

一方、この間、グローバルサプライチェーンを支える国際海上輸送は、コンテナ船のスペース不足やコンテナの不足、港湾施設の混雑、海上運賃及び燃料費の著しい高騰など、極めて困難な状況に直面することとなりました。

このように、今般の一連の事態を通じて、グローバルサプライチェーンの脆弱性が顕になった訳ですが、安定的かつ効率的なグローバルサプライチェーンの存在を前提として経済・社会が成り立っている我が国にとっては、今回の教訓を踏まえ、経済安全保障の観点からも、グローバルサプライチェーンの強靱化を図ることが喫

緊の課題であると考えます。

当センターでは、昨年6月の第2回セミナーにおいて「RCEP下とポストコロナの東アジア物流の展望」をテーマとし、また、7月の第3回セミナーにおいては「国際物流における我が国の貿易電子化の現状と課題」をテーマとして、国際物流の動向やグローバルサプライチェーンを支える貿易電子化の動向を取り上げて、最新の情報・知見の共有及び意見交換を行ってきましたが、今回は、特に重要な課題であるグローバルサプライチェーンの強靱化に向けて、船社、港湾、荷主、フォワーダー等の関係者が今後どのように取組を進めるべきか、課題解決のための手がかりは何か、といったことを中心に、最新の情報・知見の共有と意見交換を行いたいと思います。

まず最初に、関西大学商学部教授の飴野様から、続いて NIPPON EXPRESS ホールディングスの犬井様、続いて A.P.モラー・マースクの山本様、続いて横浜川崎国際港湾株式会社の人見様から、最後に当センターの福山客員研究員から、それぞれ講演をしていただきます。

その後、流通経済大学流通情報学部長の矢野教授にモデレーターをお願いし、講演者とパネルディスカッションを行っていただきます。

最後に、会場参加又はオンラインでご参加いただいた皆様からのご質問をいただく予定です。

本日のセミナーが、ご参加いただきました多くの皆様にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

では、講演者及びモデレーターの皆様、どうぞよろしくお願いいいたします。